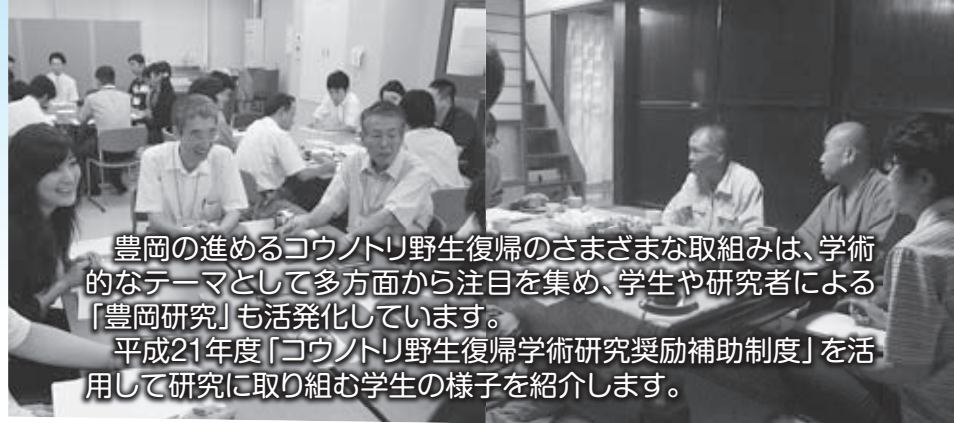


張る学生を ます!!

いる学生たちがいます。
補助制度」を活用して研究に取り組む学生や、
大学経済学部の学生の実践型経済学の学習

を紹介します。



豊岡の進めるコウノトリ野生復帰のさまざまな取組みは、学術的なテーマとして多方面から注目を集め、学生や研究者による「豊岡研究」も活発化しています。

平成21年度「コウノトリ野生復帰学術研究奨励補助制度」を活用して研究に取り組む学生の様子を紹介します。

▲地域の方と意見交換をする中川さん(左)

▲田結区の方に聞き取り調査を実施する石原さん(右)

石原広恵さん…「過疎化・高齢化により、従来のような里山・里地の維持管理システムが機能せず、農村風景の荒廃が問題となっている。コウノトリのエサ場としての湿地再生を模索する田結区を事例として、地域と環境の持続可能性の両立を考えたい」

市の北東部、港地区に位置する漁村・田結区の水田に、昨春、突然コウノトリが舞い降りてエサをついばむようになりました。シカの被害により徐々に水稲の作付けが減り、谷一帯が放棄田となつてしまつたこの場所では、逆にシカが草を食べることで湿地性植物の植生管理の役割を果たし、生物層が豊かになっていくことが分かりました。そのことを機に、湿地としての水田の再生と、地域再生がスタートしたのです。

石原さんの専門は環境経済学。こうした動きに注目した彼女は、昨年7月末に単身イギリスから豊岡に乗り込みました。自力でアパートを探し、地域交流の場である「なでしこセンター」を通じて市民提供の家財を活用しながら生活



し、市内を走り回っていきま専門分野に精通する才女のため、

逆にな各所から環境経済学などについて講演依頼を受けることも。また、英語も堪能(アラビア語も)で、市役所を訪れる外国人来訪者などの通訳や、英文資料などの翻訳作業を申し出ていただくこともありました。

研究フィールドにさらに密着した調査を行うため、2月末からは田結区に引越し、滞在期間を延長する予定です。



石原広恵さん
ケンブリッジ大学大学院博士課程3年生(土地経済学部環境経済学専攻)

「環境行動の持続可能性だけでなく、自分の研究の(資金的)持続可能性も模索中です。英会話を習いたい方、お待ちしています!」

中川瑠美さん…「コウノトリ育むお米」を手掛かりに、市が直面する農業の問題を多様な農業者の現場情報から検証、分析しました!」

中川さんの専門は、社会の持続可能性の探求です。環境創造型農業と言われる豊岡の「コウノトリ育む農法」は、真に持続可能なのか。課題や限界があるかを分析。これは、現代の農業現場の課題を考えることにもつながる研究です。学生が研究を行う上で、最も費用が掛かるのが滞在費。特に長期滞在を行う場合には、市の補助だけではとても賄ないきれません。そのため彼女が知恵を絞った方法は素晴らしいものでした。受験生のいる市民に直談判を行い、家庭教師をしながら、約40日間のホームステイを実現。この間、市内全域約20件の農家にじっくりとインタビューを行いました。

慣行農法の農家やコウノトリ育む農法の農家。兼業農家や専業農家。豊岡の全域を走り回っての聞き取り調査です。中川さんは「できるだけ偏り

のないように、全地域であらゆるパターンを見なければならぬと思っただけです。そうでないと、「豊岡の農業現場を見た」とは言えません」と話します。

いつも全力で研究に取り組み続けた彼女、研究結果がまとまるのが楽しみです。



中川瑠美さん
京都大学大学院修士課程2年生(地球環境学専攻)

「滞在先の家族、訪問できなかった方々も含め農業者の皆さん、道中親切にしていた皆さんの協力があって研究を完遂することができました。ありがとうございました!」

今年度は、9人の学生が補助制度を活用して豊岡研究を実施しています。3月下旬にその研究成果を発表・公開予定です。ぜひ、ご覧ください。

学生のホームステイ滞在などに協力いただける方の情報をお待ちしています。

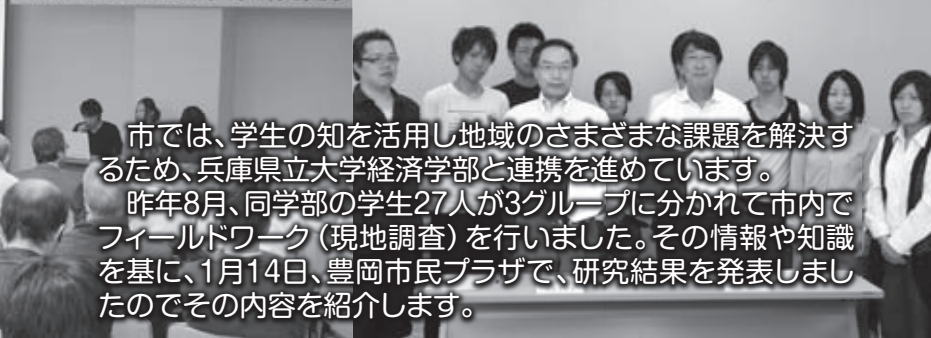
《問合せ》コウノトリ共生課

☎21-9017

豊岡市は頑 応援し

若さと情熱を持って、豊岡の研究に挑んで市では、「コウノトリ野生復帰学術研究奨励今年度から連携協力の提携を結んだ兵庫県立を応援しています。

皆さんの近くで、研究に取り組んだ学生たち



市では、学生の知を活用し地域のさまざまな課題を解決するため、兵庫県立大学経済学部と連携を進めています。昨年8月、同学部の学生27人が3グループに分かれて市内でフィールドワーク（現地調査）を行いました。その情報や知識を基に、1月14日、豊岡市民プラザで、研究結果を発表しましたのでその内容を紹介します。

▲兵庫県立大学経済学部 ▲豊岡市・兵庫県立大学経済学部連携協力協定書調印式 研究発表会

兵庫県立大学経済学部
学生から見た豊岡とは
学生が考えた活性化策とは

◆かばん産業の盛衰と課題

人材、ブランド、広告・PR面など、カテゴリー（項目）ごとに問題提起と解決策の提案がされました。

《具体的な戦略としての提案》

- ・各企業が自社の強みに特化し、他の企業と協力関係を作り、産地全体を盛り上げていくかばん業界のネットワーク化
- ・人件費削減や後継者不足の対応として、アジアの若者を担い手として育成
- ・かばん業界全体が連携してオリジナルエコバッグを生産↓市民に販売↓商店街やスーパーなどでエコバッグとして使用する↓割引が受



◆環境と経済の融合は可能か？

環境と経済の両立を図る上で、利益追求型と環境重視型とで、とらえ方の違いによる方向性の不一致が生じる可能性がある。そうなれば活性化が困難となるので、まずは地域内での意志統一が必要であるとの指摘がありました。

《活性化のための具体案》

- ・子宝や恋愛成就のスポットとして若者が気軽に立ち寄れるコウノトリ神社の開設
- ・戸島湿地を分割し、区画ごとにオーナーになってもらう湿地オーナー制度
- ・コウノトリや豊岡のことを知ってもらう機会とするコウノトリ検定の実施 など



◆中心市街地の活性化は可能か？

大型店舗や商店街などの課題や、それぞれの持つ強みと弱みを分析した上で、まちづくり会社を中心に、まちの目指すべき姿を明確にし、地域の「くらしの空間」を作るため、集中的に再生事業を進めていくことが重要であるとの指摘がありました。

《活性化のための具体案》

- ・空き店舗などの不動産利用権を証券化して販売し、資金を集め、その資金で商業など複合施設を整備
- ・小中学生や高校生に、実際に商店街の店で働いてもらう「子どもの模擬就業体験」
- ・駅前商店街の800メートルの直線道路を生かし、地元住民や観光客、著名人に道路に絵を描いてもらう



「アートストリート」としてPRなど

◆大胆なチャレンジを

学生の発表後、授業を担当した教授の加藤恵正さんは、総括で次の点を指摘しました。
・地方都市はどこも大変厳しい状況である。たくさんありながら死蔵されてしまっている地域の魅力や資源を表に出すきっかけをつくる必要がある。

◆産官学連携

市では、大学の持つ知見・識見により、産業界や市の課題の解決、ニーズの充足を図り、産業界の発展や本市まちづくりの推進に資するため、産官学連携を進めています。

今後、市の今日的な課題の解決や地域活性化に向け、兵庫県立大学経済学部との連携強化を図っていきます。

《問合せ》経済振興課 経済政策係 ☎ 21-9002